

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連 有・無  
 有  
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	栄養・食生活改善事業の推進							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	健康推進担当係長 二宮真由美
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健	コード	2 1 1
	項	健康			単位施策(中)	生活習慣病予防対策の充実	コード	2 1 1 1
					単位施策(小)	栄養・食生活改善事業の推進	コード	2 1 1 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	健康アクションプラン21でも重点項目となっている,食を通して生活習慣の改善をねらい生活習慣病を予防する			
1-5 事務事業の内容	男性の料理教室実施・ヘルスサポーター事業(食生活改善推進グループへの委託事業)							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	講座については一方的な講義形式でなく参加、体験を主体としての内容にする事により参加者の動機づけを促す効果をねらっている。	中高年男性の肥満予防はメタボリック症候群予防の大きい要素である。今後も一層強化していく。	メタボリック症候群予防の情報を積極的に市民に提供していく。また講座には気軽に参加しやすい設定も必要。		
平成19年度	参加者拡大のため、PR内容を工夫した。男性の食生活の特徴を踏まえテーマを設定。実生活で実践できるように手ばかり栄養法を取り入れる。	中高年男性の肥満予防はメタボリック症候群予防の大きい要素であり、食生活の見直しから予防していくことに取り組んでいく。	メタボリック症候群の予防を意識し、継続して生活していくことは難しい。食という身近なことで取っ掛かりとすることで、メタボリックシンドローム症候群の予防に興味を持つ手がかりとすることができる。			
平成20年度	調理法の実習だけでなく、栄養バランスガイドを利用した栄養指導の実施などわかりやすい解説を行った。	"	メタボリック症候群予防を継続的に取り組むことは難しいが、調理の楽しさを体験したことで、OBの料理教室への参加希望も複数あった。			
平成21年度	新規参加者の増加をねらい、調理初心者でも参加しやすいような基礎的な内容とした。また、調理実習だけでなく、食生活改善に向けた減塩などの解説も行った。	"	メタボリック症候群予防を継続的に取り組むことは難しいが、調理に楽しさを体験することで、“また参加したい”という声が多数聞かれた。参加者の家族にも喜ばれる事業であり、市民ニーズは高い。			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	講座参加者数		40(人)	100(人)	生活習慣病予防のための、対象者への食生活改善の働きかけが理解された取り組みとなっているか量的に表す(参加者数) 【資料】とよあけの保健

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位) 直接事業費 b(千円) 人件費 c(千円) 合計コスト d(b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		講座参加者 当たり 5	22(人)	44(人)	61(人)	47(人)					
	15	40	70	50							
	98	154	154	86							
	113	194	224	136							
	講座参加者 当たり 5	講座参加者1人 当たり 4	講座参加者1人 当たり 4	講座参加者1人 当たり 3	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 事業形態は食生活改善推進員グループへ委託事業としている。【直接事業費】男性の料理教室委託料25,000円 ヘルスサポーター委託料25,000円 合計70,000円  
 【人件費】 男性の料理教室 3,200円×(4h+2h)×2=38,400円 ヘルスサポーター事業 3,200円×(5.5h+2h)×2=48,000円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	22	44	61	47						
	後期目標値に対する達成度(%)	22.0	44.0	61.0	47.0						

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B	A	A	A						

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	食を通してメタボリック症候群予防事業を重点的に取組む。今後も事業拡充をはかる	参加者の拡大を図る(例:企業や商工会など団体向けの働きかけを行う)また、市民への情報発信を積極的に行う	食生活改善グループと健康課も積極的に関わる重点事業の位置づけ。グループの活動の場としても効果的であった。体験型学習により参加者の生活改善意識が高まったと実感できるプログラムであった			
平成19年度	食を通してメタボリック症候群予防事業を重点的に取組む。実践につながる動機づけができるよう内容を充実させる。	対象者が興味をひくテーマ・内容を検討し、教室参加後実践していけるように働きかける。	PR内容の工夫で気軽に参加できる教室となった。男性の食生活の特徴を踏まえた内容にすることで、改善意識に働きかけることができた。「今後も続けていきたい。」という、言葉が聞かれ実践につなげていける内容となった。				
平成20年度	内容は食を通してメタボリック症候群予防や健康づくり事業を重点的に取組むが、申込者多数で回数増も検討の必要が	"	"				
平成21年度	内容は食を通してメタボリック症候群予防や健康づくり事業を重点的に取組む。参加者が教室終了後も継続していけるような場と、支援する人の確保が課題になる。	メタボリック症候群予防を食生活の面から早期に意識づけるよう、男性料理教室には、若い世代の参加者の増加を狙えるようなテーマ・内容を検討する。	教室終了後、参加者の約8割が教室で学んだ献立を自宅で調理してみたという結果からも、実践につなげていける内容となった。さらに、学んだことを知人に伝達してくれたこともあり、参加人数以上の人の知識の普及ができた。				
平成22年度							
平成23年度							
平成24年度							
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	実習等講座内容の充実を図り、参加動機を高めるよう努めること。	
平成19年度	A	講座内容の充実を図り、参加動機を高めるよう努めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			